

とよみました。むかし、小平瀨の浜で遊んでいた梅少年のすぐれた才能はここにみごとに花ひらいたのです。

新撰菟玖波集

その後の兼載は、北野会所奉行として貴族や武士、各地の大名などの連歌の指導をつづけ、名声はますます高くなつていきました。しかし、兼載の残した大きな仕事は、宗祇と協力して新撰菟玖波集という連歌集を作ったことであります。

短歌の方では勅撰和歌集のいくつかをはじめとして、多くの歌集がありました。しかし、連歌の方では菟玖波集が作られてから百年あまりの間、歌集は作られず、このころになつてようやく第二の連歌集を作ろうという動きがさかん